

報 告 書 要 旨

学籍番号	17AX001	氏名	尾澤 知典
報告書題目： メンタリングでの 学習指導案の協働作成による子ども主体の授業の 開発・実行に向けた工夫ができる教師の育成			
(内容の要旨)			
<p>本研究の目的は、横浜市立緑園東小学校において、「子どもが主体の授業を開発・実行できる教師を育成していくこと」ために、「協働での指導案作成」が効果的に機能するかどうかを検証することである。</p> <p>現在、OECDのDeSeCoプロジェクトやATC21sが世界的に発信しているように教育現場では、未来の姿として「将来の予測が困難な状況」を想定している。ここでは、たとえどのような未来があったとしても、何とかしてその状況の中で生きていける子どもを育てることが大きな目標になっている。</p> <p>このことは、本校においても同じようにとらえており、その解決の手立てとして、「児童が協働で思考し、自分たちで学びを練り上げる学習」に取り組んで知る。このような学校の現状を把握し、児童の実態から導出された教育理念に基づく授業研究の趣旨をよく理解し、それに沿った授業を深化発展させていける教師の育成を図ることが求められている。</p> <p>「協働での学習」を行える教師の育成についての先行研究としては、「協調学習」が学習者の支援について、「授業デザイン」が授業の改善の支援について、「メンタリング」が教師同僚性を用いた資質の向上支援についてのものがある。ところが、同僚の力を用いながら、協調学習の授業設計に焦点化した研究は行われていない。</p> <p>そこで、本研究では、「メンタリングの形態を用い、同僚同士で協働により、協調学習の学習指導案を作成する」取組を行った。</p> <p>その結果、「授業展開を話していく教師（リード役）」においては、自分では気が付かない手立てを生み出すことができるようになった。また、「記録役の教師」においては、子ども主体の授業づくりの方法が分かってきたことや、子ども主体の授業の良さに触れることが確認できた。それ以外にも、指導案を作成する段階での精神的な負荷が下がることが分かった。また、若手やベテランに限らず、指導案改善のための意見が言いやすくなり、言われた側もそれを好意的に受け止めて意欲的に作り進めることができることが分かった。</p>			